

二〇一四年四月一八日

雪間よりのぞきたる黄は福寿草
流鏑馬の蹴散らしてゆく春落葉
御詠歌のもるる日永の古刹かな
図書館へ道まつすぐや楠若葉

ひさ野

満天

よし子

三刀

二〇一四年四月一七日

丹精の草花庭の春惜しむ
芽木の杜画架のなかにも芽木の杜
蔵の町門川掠めつばめ来る

はく子

菜々

なつき

二〇一四年四月一六日

花明りのこりて山の昏れなんと
咲き満つる浜大根の岬かな
一斉に芽吹く大樹に風通ふ
天満署はもぬけや花の通り抜け

よし子

三刀

ひさ野

雅流

二〇一四年四月一五日

蜂忙しローズマリーに頭突きして
版画絵のごとし干潟の残り潮
たんぽぽや園児らは声撒き散らし

ひかり

三刀

菜々

二〇一四年四月一四日

雉の声朝の林の間遠より
春の月侍者のごとくに一つ星
春濤にテトラポットはぼぼと鳴る
魚板打つ二の腕白し松の芯
無人駅灯る明かりの朧かな

ひさ野

菜々

せいじ

雅流

みちほ

二〇一四年四月一三日

自家製のハーブティー飲み春惜しむ
姦しき鳥語に覚むる朝寝かな
花吹雪道に賭列す予科練碑

はく子

さつき

なつき

二〇一四年四月二日

囀れるヒマラヤ杉を仰ぎけり
酒蔵の屋根を覆ひて囀れる
花ふぶき表彰式のグラントへ

はく子

さつき

雅流

毎日句会みのる選・二〇一四年四月二〇日